Weekly report

MINKABU THE INFONOID
株式会社 ミンカブソリューションサービシーズ
東京都港区東新橋1-9-1

為替週間展望＝ドル円は底固い展開か

［４月１５日からの１週間の展望］

－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

週間高低（カッコ内は日）　4 月 8 日～ 4 月 12 日

	始 値	高 値	安 値	終 値	前週比
ドル・円	151.59	153.32(11)	151.57(8)	153.25	+1.63
ユーロ・ドル	1.0836	1.0885(9)	1.0682(12)	1.0683	-0.0154

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

国内株・金利／米国株・金利

	終 値	前週末比		終 値	前週末比
日経平均株価	39,523.55	+531.47	日本10年債利回り	0.859	+0.070
ダウ平均株価	38,459.08	-444.96	米10年債利回り	4.587	+0.185

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

＜来週の主要経済統計等＞

１５日　日本２月機械受注
　スイス３月生産者輸入価格
　ユーロ圏２月鉱工業生産指数
　カナダ２月製造業出荷、カナダ２月卸売売上高
　米３月小売売上高、米４月ＮＹ連銀製造業景気指数
　世界銀行と国際通貨基金（ＩＭＦ）の春季会合（ワシントン、２０日まで）
１６日　中国第１四半期ＧＤＰ、中国３月小売売上高、中国３月鉱工業生産指数
　英３月雇用統計
　独４月ＺＥＷ景況感指数
　ユーロ圏２月貿易収支
　カナダ３月消費者物価指数
　米３月住宅着工・許可件数
　米３月鉱工業生産・設備稼働率
　ＩＭＦが世界経済見通し（ＷＥＯ）公表
１７日　ＮＺ第１四半期消費者物価
　日本３月貿易収支
　英３月消費者物価指数、英３月生産者物価指数、英３月小売物価指数
　ユーロ圏３月消費者物価指数確報値
　米２月対米証券投資
　２０カ国・地域（Ｇ２０）財務相・中央銀行総裁会議（１８日まで）
１８日　豪３月雇用統計
　ユーロ圏２月経常収支
　米新規失業保険申請件数、米４月フィラデルフィア連銀景況指数
　米３月景気先行指数、米３月中古住宅販売件数
１９日　日本３月消費者物価指数
　英３月小売売上高
　独３月生産者物価指数
　植田日銀総裁講演（米ピーターソン国際経済研究所）

－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

【前回のレビュー】ドルの上昇の動きが一服する中、円売りの動きがドル円を支えるものの、財務省や日銀によるドル売り円買い介入への警戒感が重石となっている。ドル円は方向性が出にくい中、高値圏でのもみ合いが継続するとした。

【ドル円は約３４年ぶりの高値圏まで上昇】

　１０日に発表された３月の米消費者物価指数は、総合が前月比＋０．４％（市場予想の＋０．３％）、前年比＋３．５％（市場予想＋３．４％）。コアは前月比＋０．４％

（市場予想＋０．３％）、前年比＋３．８％（市場予想＋３．７％）となり、いずれも市場予想を上回る強い結果となった。

この結果を受けて、米連邦準備制度理事会（ＦＲＢ）による利下げが後ずれするとの観測が広がり、米１０年債利回りは４．５４％台まで上昇するとともにドル買いの動きが広がった。ドル円は約３４年ぶりに１５３．２０円台までドル高円安が進んだ。

１０日（日本時間１１日午前３時）に公表された米連邦公開市場委員会（ＦＯＭＣ）議事要旨（３月１９日、２０日開催分）では、「年内の利下げが適切とほぼ全員が判断」「量的引き締めのペース減速については早期に開始するのが適切」との指摘が見られた。最近のデータは、「インフレ率が２％に向けて持続して低下しているという自信を深めるものではない」との見解も示された。また、利下げ開始前には「インフレ鈍化が続くとの自信が強まる必要がある」と指摘している。

１１日には１５２円台後半から１５３円台前半での推移を見せた。財務省の神田財務官や鈴木財務相から、円安進行をけん制する発言が出ていたものの、口先介入の影響は限定的となった。

１１日に発表された３月の米生産者物価指数は、前月比＋０．２％（市場予想＋０．３％）、前年比＋２．１％（市場予想＋２．２％）と市場予想を下回った。一方、コアは前月比が＋０．２％（市場予想＋０．２％）、前年比＋２．４％（市場予想＋２．３％）と前年比が市場予想を上回った。コア前年比以外は予想通りか予想を下回っており、市場への影響は限定的だった。

ＣＭＥ　ＦＥＤＷＡＴＣＨによると、６月の利下げ確率は２０％程度で、据え置き確率は８０％前後となっている。米消費者物価指数の発表前までは利下げと据え置きが拮抗していたが、利下げ確率が大きく低下している。７月は据え置き確率が４８％前後となり、１回か２回の利下げ確率が５２％前後となっている。８月は１回か２回の利下げが７５％前後で、据え置きが３１％前後となっている。

これまでの６月利下げ開始の見通しが後ずれして、７月か８月に利下げ開始との見方が広がっている。ただ、インフレが鈍化傾向を見せずに上振れするようなこととなれば、年内利下げ見送りといったシナリオが視野に入ってくる。ドル高基調の継続により、ドル円は底固い展開が見込まれる。ただ、政府・日銀による介入警戒感が上値を抑える展開となりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、１５０．５０～１５４．５０円。

日米の経済指標やイベントとしては、１５日に日本２月機械受注、米３月小売売上高、米４月ＮＹ連銀製造業景気指数、１６日に米３月住宅着工・許可件数、米３月鉱工業生産・設備稼働率、１７日に日本３月貿易収支、米２月対米証券投資、１８日に米新規失業保険申請件数、米４月フィラデルフィア連銀景況指数、米３月景気先行指数、米３月中古住宅販売件数、１９日に日本３月消費者物価指数などがある。

【ユーロドルは上値の重い展開か】

１１日に開催された欧州中央銀行（ＥＣＢ）理事会では政策金利は市場予想の通り据え置きとなった。理事会後の記者会見でラガルド総裁は、「労働市場の引き締まりは徐々に緩和する見込み」「ＥＣＢは米金融当局には依存していない」「４月に一部データが得られるが、６月にはより多くのデータが入手可能」「６月まで待つことを大多数のメンバーが選好した」「賃金の上昇、利益率の上昇などが続けば、インフレ率が上昇する可能性ある」「６月に我々の期待が満たされたかを判断する」などと述べた。ＥＣＢが６月に利下げに動くという従来からの見方が再確認された。

ユーロドルは９日に１．０８８５近辺まで上昇したものの、１０日に強い米消費者物価指数を受けて大きくドル買いに傾き１．０７２０台まで下落した。１１日のＥＣＢ理事会やラガルド総裁の記者会見は想定の範囲内の結果となり、ユーロドルは１．０７台での振幅となった。ＥＣＢはＦＲＢに比べて利下げ開始時期が相対的に早いとみられ、ユーロドルは戻しても売りに押されやすい展開が続くとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、１．０６００～１．０８５０ドル。

ポンドドルは１．２７近辺の水準から強い米消費者物価指数を受けてドル買いの動きに傾き、１．２５２０近辺まで下落した。１１日に１．２５ドルに接近した後は売り一服となっている。英中銀（ＢＯＥ）による利下げ開始は８月前後とＥＣＢの６月前後開始の見方と比べると遅く、ユーロに比べてポンドは相対的に強い動きが見込まれる。こうした中、ポンドドルは１．２５付近を底に上昇に転じる展開が見込まれる。ポンドドルの目先の予想レンジは、１．２５００～１．２８００ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、１５日にスイス３月生産者輸入価格、ユーロ圏２月鉱工業生産指数、１６日に中国第１四半期ＧＤＰ、中国３月小売売上高、中国３月鉱工業生産指数、英３月雇用統計、独４月ＺＥＷ景況感指数、ユーロ圏２月貿易収支、カナダ３月消費者物価指数、１７日にＮＺ第１四半期消費者物価、英３月消費者物価指数、英３月生産者物価指数、ユーロ圏３月消費者物価指数確報値、１８日に豪３月雇用統計、ユーロ圏２月経常収支、１９日に英３月小売売上高、独３月生産者物価指数などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>
本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブソリューションサービシーズは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブソリューションサービシーズが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>
本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブソリューションサービシーズ)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。